

『啐啄同機』

(平成27年度第3学年PTA校長挨拶より)

本日は暑い中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃の本高 教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。

学校は今、三大多行事の二つ目、玲瓏祭が終わりました。全県総体も終わって、運動部は、一部の県体、東北大会、インターハイ出場者、そしてこれからの野球と水泳が残っているところです。文化部では吹奏楽などはこれからです。

一方で引退という生徒もすでに出ております。

まだ活動途中の人もおりますが、まずはひとまず、これまでの3年生のがんばりに対してお礼をいいたいと思います。

一つは、活躍によって、学校の活性化、やる気を充填してくれたということで、そして、もう一つは、文化祭や運動会等で本荘高校の伝統を1、2年生に引き継いでくれていることです。引き続き、この後も伝統の継承や野球をはじめとして各大会でがんばっていただきたいと思います。

さて、話は変わりました、この時期の3年生の保護者から出る質問ベスト5は、私の経験ですが、

- ・今の力で合格できるか
- ・今からでも間に合うか
- ・入試はどうなっているのか。
- ・今後の入試日程はどうか。
- ・第一志望はいつまで決めればいいのか

などでしょう。具体的には後で進路の担当や担任から、お話があるでしょうから、私からは、一つだけお願いをお話しします。

禅宗の言葉に、『啐啄同機』という言葉があります。

◇鳥の卵が孵化するときに、ひなが内側から殻をつつくことを〈啐〉といい、これに応じて、母鳥が外から殻をつついて助けることを〈啄〉という

◇ひなと母鳥が力を合わせ、卵の殻を破り誕生となる。この共同作業を啐啄というのですが、後に転じて「機を得て両者が応じあうこと」「逸してはならない好機」を意味するようになりました。この話は、

親鳥を「子どもの成育環境」に、雛を「子どもの自立・主体性、可能性」と読み替えて話されることが多いようです。このとき、意味は、

子どもの可能性は、絶妙のタイミングで保護者さんが環境条件を整えてやることで見事に花開くということになります。極論すれば、

子どものために環境面で応援しなさい。今応援すると、必ず答えてくれる最高の機会だし、今しかないよということです。

ところで、環境には、金銭的・物質的環境のほかに、精神的な環境、言語環境があります。一番ダメなのは、

- ・意欲を失わせる…志望を下げればいいのか
- ・余計なプレッシャーや苦しさを与え過ぎる…浪人も私大も絶対ダメ、秋田だけ

・いつも口うるさい…逆効果、意欲を失う

必要なことは、子どもの力を信じて、見守ること。肯定的に励ますこと。結果ではなく、過程をほめること。

本高の生徒はこれから伸びる。特に部活の生徒はすごい。体力と精神力。

センター試験の直前まで伸びるし、2月になってからの伸びも大きい。

模試の判定は参考にはなるが、気にすることはない。

志を持って努力することで、得るものが大きい。

特に就職希望の人は、大学入試よりも難しいところもあります。夢や目標が必ず問われます。決して安心することの無いようにお願いします。

ということで、私からの願いは、ご家庭での環境面でのご支援をよろしくということとです。

最後になりますが、

部活や生徒会活動を支えてくれたのはすべて保護者の理解のおかげです。物心両面の御協力にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

生徒の志望実現に向け、学校では師弟同行の精神で頑張る所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。よろしくお願いいたします。

(完)